

# 山行報告

## ■六甲山 油コブシ～シュラインロードを歩く

## ＜女性委員会山行＞

- 日 程：6月14日(金)
- 参加者：La 澤田(律) SLa 垣内 乙坂 田羅間 徳本 安田  
Lb 待場 SLb 大谷 小田(敏) 黒本 土井 苦瓜 村上
- 行動記録：阪急六甲駅 9:00 発一六甲ケーブル下(9:15 着) 9:30 発～登山口(9:40 着) 9:45 発～油コブシ山頂(10:50 着)～記念碑台(11:45 着) 12:25 発～前ノ辻(12:35 着)～行者堂(12:55 着) 13:00 発～ドライブイン出会(13:20 着) 13:30 発～東山橋(14:20 着)～神鉄唐櫃台駅(14:45 着)

## ◆油コブシ～六甲山古道の一つシュラインロードを歩く

## 黒本

天気は、曇りのち15時以降の予報で、9時に阪急六甲駅に集合し、13人での山行でした。バスで六甲ケーブル下駅まで移動し、登山口入口でストレッチ後出発。天気は、曇り晴れで日差しもあり、蒸し暑く体力が持つか心配しつつ、いきなりの急登階段。そして、つづら折りの道が続き休憩を入れながら、油コブシのきついルートを2時間程かけて山上駅へ。途中の開けた所からは、遠くは霞んでいましたが六甲アイランド・東灘辺りは見渡せました。車道を少し歩き、記念碑台で昼食休憩をとりました。六甲山ビジターセンターができており、グルーム氏の胸像・ベンチ・東屋と広場が整備されていました。

前ヶ辻からシュラインロードに入り、唐櫃台駅まで緩やかな下り道でした。シュラインロードは、両脇に石仏が点在して、役行者(7世紀後半の山岳修行者)を祀る行者堂があり、シュライン(聖なる場所や建物の意味)ロードと外国人が呼んでいたのが由来のようです。

昼過ぎからは、灰色の雲が出てきて、北寄りの風となり、気持ちよく散策しながら歩けました。駅に着くと同時に雨が降り出し、帰宅組と温泉組に分かれ山行は無事終了しました。



六甲山は、コアジサイが満開で群生している所では、辺りに甘い香りが漂っていました。淡青紫色・白色と優しい色で清楚な花です。ヤマボウシ・ウツギ等も咲いていました。シチダンカも六甲山ガイドハウス前で咲いているのを教えていただきました。シーボルトが、「日本植物誌」で紹介して以来、「幻のアジサイ」と呼ばれていた花で1959年に六甲山で約130年ぶりに発見されました。花が見られてラッキーでした。大きなアジサイには、少し早かったですが、六甲山で自生する花を楽しむことができました。この時期に計画してくださったリーダーに感謝します。

ご一緒してくださった皆様、お世話になりました。移動距離約10km。歩数約2万歩。

## ■<sup>あもう</sup>天生湿原・<sup>もみぬか</sup> 靱糠山

● 日程：6月21日(金)～6月23日(日)

● 参加者：L 佐々木 SL 大谷 藤原(千) 松下

● 行動記録：

(21日) 宝殿駅(北)7:45 発—莊川 IC(11:50 着)発—三方岩岳駐車場(13:40 着)14:07 発～三方岩岳(14:57 着)15:25 発～三方岩岳駐車場(16:00 着)16:14 発—白川郷自然学校・宿(16:35 着・泊)

(22日) 白川郷自然学校(宿)8:20 発—天生峠駐車場(8:55 着)9:15 発～天生湿原靱糠山登山口(9:18 着)9:20 発～休憩所(9:55 着)10:00 発～カラ谷分岐(10:16 着)発～靱糠分岐(11:25 着)11:32 発～木平分岐(11:50 着)発～カラ谷分岐(12:15 着)12:56 発～休憩所(13:18 着)発～天生湿原靱糠山登山口(13:40 着)～天生峠駐車場(13:45 着)14:30 発—白川郷民宿(15:35 着・泊)

(23日) 白川郷民宿 8:37 発—白水の滝(9:45 着)10:01 発—大白川露天風呂(10:06 着)10:40 発—莊川 IC(12:10 着)発—宝殿駅(16:35 着)

### ◆天生湿原+三方岩岳 in 飛騨高地

松下

6月21日、好天に恵まれ宝殿駅をS車にて4名で出発。東海北陸道莊川ICから白山国立公園の裾で眺めの良い御母衣(みぼろ)湖畔を通り白山白川郷ホワイトロードをくねくね車で上って行き、三方岩岳駐車場から登山道を上って行った。登山口がすでに標高1445mと高度感があり、展望も良い。コースリーダーのOさんは登りが続くがよいテンポで上って行く。登山道脇を彩る花は種類も多く、群落もたくさんある。イワカガミ、マイヅルソウ、ゴゼンタチバナ、ツマトリソウ、ウラジロヨウラク、タニウツギ、アカモノ、オオバキスミレ・・・花の名前はFさんが次々教えてくれる。ほぼ登りつめて展望のきく処へ出ると、南に残雪の美しい白山がでーんと見えた。三方岩岳は日本三百名山ということだが、頂上に三角点が見当たらず、しばし捜したが分からなかった。しかし、この名の通り、三方を飛騨岩、加賀岩、越中岩に囲まれていて、これらの岩壁が名前の由来になっているそう。ガイドブックによると、ハクサンシャクナゲが見頃で、向かいの尾根の斜面に白いシャクナゲの群落があった。ダイナミックな岩山と花々を楽しんで今宵の宿であるトヨタ白川郷自然学校へ向かった。立派な行き届いた造りで気持ちよく過ごし、美味しいフレンチの食事に胃袋もびっくりだった。気掛かりは一点、明日の天気である。



6月22日、夜半に降ったらしく窓の外は濡れている。天気予報は午後から雨だったが、出発前は朝からパラついていて、終日雨の予報が出ていた。天生峠までの林道もくねくねと急カーブの連続で道幅も狭く、今日もドライバーにはご苦労をかける。峠に着くと、広い駐車場に無料トイレもある。天生湿原は県立自然公園で生態系を維持するために環境整備協力を1人

500円登山口で支払う。ここのお楽しみは水芭蕉であるが、今は花が終わっている。しかし、湿原の花々も見事で、チゴユリ、オオバミヅホウズキ、ツバメオモト、ニッコウキスゲ、ホウチャクソウ、ユキザサなど、昨日の三方岩岳で見た花に加えて多彩な植生を作っている。湿原を抜けてブナ探勝路をすすむと、ブナの大木に圧倒される。蒸し暑い中、虫よけネットを被って、急登をゆっくりと上って行く。靱糠分岐に着いて、頂上まで行くか引き返すか協議した。皆はGOの意見だったが、私は雨が心配だった。結果、引き返すことになった。下山は木平湿原ルートを取り、急傾斜の登山道ながら下山の足はけっこう速かった。カツラの巨木がある木平湿原分岐で、靱糠分岐でも出合ったパトロールをしているとかいう元ガイドの人から色々な話を聞かせてもらった。下山して空を見上げると、青空が広がっていたのには情けなかった・・。

峠の駐車場でリーダーが豆をひいて美味しいコーヒーをごちそうしてくださった。少し遅い昼食だったが、これから下山後の楽しみである世界遺産白川郷の民宿へ向かう。

白川郷は内外からの観光客がほとんどだが、日が落ちて静かになった茅葺の古民家は風情があって落ち着く。囲炉裏のある板の間での食事も美味しかった。

6月23日、早朝で観光客のいない白川郷は澄んだ空気に包まれていた。結の歴史の重みを胸に、帰路の寄り道に白山の裾野を再度くねくね林道を行き、平瀬道登山口にある大白川露天風呂に浸かって、一路、宝殿へと向かった。ご一緒してくださった皆さんに感謝！です。そして、次は水芭蕉の花の時期に来たいと思った。

## ■樽前山・羊蹄山・ニセコアンヌプリ

● 日程：6月25日(火)～28日(金)

● 参加者：L 垣内 SL 澤田(律) 赤木 田中(重) 田中(美) 苦瓜 村上 安田

● 行動記録：

(25日) 姫路 5:40—伊丹空港(6:15 着)8:10 発—新千歳空港(9:55 着)—樽前山登山口  
13:25 発～東山山頂(14:20 着)14:25 発～風不死岳分岐(15:10 着)15:25 発～樽  
前山登山口(16:00 着)—ニセコユースホテル(泊)

(26日) 真狩登山口 9:55 発～南コブ分岐(10:30 着)10:40 発～4 合目(12:10 着)12:20 発  
～6 合目(13:50 着)14:00 発～9 合目(15:45 着)15:55 発～避難小屋(16:00  
着)16:15 発～ひらふ分岐(17:00 着)～北山(17:10 着)17:20 発～羊蹄山山頂手前  
(17:30 着)17:35 発～ひらふ真狩分岐(17:40 着)～旧小屋跡(17:50 着)17:55 発  
～真狩旧小屋跡分岐(18:00 着)～真狩9 合目分岐(18:25 着)18:30 発～避難小屋  
(18:40 着・泊)

(27日) 避難小屋 5:10 発～9 合目分岐(5:15 着)～6 合目(6:30 着)6:40 発～4 合目(7:40  
着)7:50 発～南コブ分岐(8:45 着)8:55 発～真狩登山口(9:15 着)9:45 発—五色  
温泉登山口 12:20 発～北大遭難碑(13:00 着)13:05 発～ニセコアンヌプリ山頂  
(14:30 着)15:00 発～五色温泉登山口(16:35 着)—五色温泉旅館(16:40 着・泊)

(28日) 五色温泉 8:30 発～神仙沼(8:45 着)10:25 発～さくらんぼの木(11:30 着)11:40  
発～高橋牧場(12:00 着)12:45 発～ふきだし公園(13:35 着)—千歳空港(17:00  
着)18:00 発—伊丹空港(19:55 着)20:35 発—姫路(21:55 着)

## ◆容姿端麗な百名山羊蹄山に登る

田中(美)

6月25日姫路発5時40分伊丹空港行きリムジンバスに乗る。伊丹空港ではG20サミットの為、物物しい厳戒態勢の警察官の数に驚きました。8時10分発新千歳空港行きに搭乗する。到着後レンタカー2台に分かれて乗り途中ガスカートリッジとレーションを買い樽前山へ



向かう。登山口に近づくと道は舗装が出来てなくてガタガタ道、おまけに凄い砂埃で車は白くなりました。広い駐車場は車がいっぱいでした。丁度お昼時だったので登山口で昼食をして出発する。樽前山は活火山で樹林は登り始めだけで以後は木陰が全くない。外輪山に到着、頂上の火口原は立ち入り禁止になっており、溶岩ドームから噴煙が上がっている。風の向きで硫黄の匂いが鼻に付く。頂上の

樽前山(東山)は羽のある虫が沢山飛び回っていて体につくので早々と退散する。ウコンウツギ、イワブクロ、イフヒゲの花を見ながら漸く森林帯に入り登山口へ戻りました。又ガタガタ道を引き返し宿泊の支笏湖ユースホテルにつきました。夜はジンギスカンを頂きました。温泉はかけ流しの湯で肌にしっとりつく感じでした。

6月26日・・・朝食後宿を7時に出発、コンビニに寄りお昼、夕食、翌朝のレーションを買う。羊蹄山登山口で美味しい湧水3ℓを汲んでザックの中に入れたが可成り重たい。このザックを背負って避難小屋まで行くとは？着くまでに体が持つか心配になる。横では湧水で作られているお豆腐屋さんが有り下山後に食べようと楽しみが出来た。10時登山口を出発、ひたすらに樹林帯を登って行く。1合目、2合目と進み、ノウゴウイチゴが赤く実っていたので食べて味をみた、甘かった。下山する男子高校生100人とすれ違いパワーを貰う。ウコンウツギの花に癒されながら9合目避難小屋分岐についた。後はここから沢を渡り避難小屋へ。残雪が山肌に沢山あり、シラネアオイの花や斜面のキバナシャクナゲが山を覆っています。重いザックを背負い結構急な斜面や大きなダケカンバの倒木を何回も乗り越えやっと避難小屋へ着いた。リーダーさんが休息をとりつつゆっくり登って下さったお蔭です。約6時間かかっていた。

大きなザックを小屋に預けて、お鉢巡りに出かけた。小屋の管理人に教えてもらったお鉢巡りコースを行くと今盛りのお花畑を見ることができ外輪に出ると母釜、子釜、父釜と3つの火口が有り深さ200mあるスリバチ状になっていて体が吸い込まれそうな感じがする。頂上を目指して歩いていると急に風が強くなり、後少して頂上に着くという所で退避を余儀なくされた。2時間のお鉢巡りを終え避難小屋に着き夕食の準備、西空に真っ赤な夕日がゆっくり沈んで行く景色を見ながら温かい飲み物や食事をする事ができた。

6月27日・・・5時10分に小屋を出発、4時間をかけ下山し楽しみにしていたお豆腐屋さんに寄る。いろいろの種類があり、よく冷えて美味しかったです。(少しお高めでしたが)ニセコアンヌプリ(1,308m)に移動、サブザックで登る。石はゴロゴロあるが歩き易く危険箇所はなかった。花はマルバシモツケ、シラタマノキなどが咲いていてハクサンボウフウ、ニッコウキスゲは蕾堅しでした。頂上から見る羊蹄山がどの様に見えるか楽しみにしていましたが



羊蹄山の山頂は薄いガスがかかっていた。「えぞ富士」とよばれている羊蹄山、分かる気がしました。下山した所に今夜泊まるニセコ五色温泉旅館があり、昨日からの汗を流したい為すぐにお風呂を頂きました。少し熱めのかけ流し温泉でした。

6月28日・・・8時30分に宿を出て神仙沼散策へ。木道は幅も広く作られているので歩きやすく花の名前を教えてもらい、写真を撮りながら木道をお楽しみしました。池塘(ちとう)と呼ばれる池沼が沢山あり、ワタスゲが真っ白な穂をつけ一面に咲いていました。チングルマの花は終わりがさぐるま状になっていました。残された自然の美しさを堪能しました。もう一ヶ所、「さくらんぼの木」という撮影ポイントの場所に移動し羊蹄山をバックに「さくらんぼの木」2本を入れて写真を撮るといった想定でしたが曇って羊蹄山が見えませんでした。残念でした。高橋牧場のレストランに寄りちょっと贅沢な北海道のご飯を羊蹄山の裾を眺めながらお腹いっぱい食べました。牧場内の散策も楽しくハスカップの熟れた実も食べる事ができました。最後に京極の道の駅「名水の郷ふきだし公園」に寄りマイナスイオンをたっぷり吸い美味しい水を汲んで新千歳空港へ。Drの赤木さん、田中(重)さん四日間有難うございました。お疲れ様でした。リーダーさん、サブリーダーさん最後の最後までお世話になりました。4日間お天気に恵まれ楽しい山行をさせてもらい有難うございました。



## ◆山行を終えて

## 垣内

昨年より「北海道の山研究会」のメンバー、澤田さん、田中重忠さん、亡くなった清水さんと話し合いを重ね山行先を羊蹄山に決めました。3人三様の持ち味があり助けていただきながら今回の山行に至りました。厚くお礼申し上げます。北海道、車なしではうまく動けません、運転していただいた田中(重)さん、赤木さんに感謝いたします。

## ■草木川を歩く

- 日 程：6月30日(日)
- 参加者：L藤本 SL木下 乙坂 高島 竹内 平石 村上 矢根 山本(清)
- 行動記録：草木川駐車地 9:30 発～入渓地(9:40 着)9:50 発～上陸地(11:25 着)

### ◆草木川を歩く

矢根

宍粟市役所に集合して、そこから現地まで移動、到着後、沢ぐつ、ヘルメットをつけ、リーダーのミーティング、ストレッチ。

集合写真を撮り、さあ水の中へ、沢歩きは、すべてがはじめての体験でドキドキで、どうなることかと少し心配し、足元が見えない水の中を確かめ、深くない所を探しながら歩いて、時には、流れの強い中、水深の深い所、危ないところはロープで引っ張ってもらい安心でした。

終わりごろは、水の中の歩行にも少しは慣れたなあと思った頃に水から上がり、もう少し歩きたかったと・・・・・・沢歩きにはまってしまった2時間の楽しい山行でした。

これからも、沢ぐつを活躍させたいです。

その後、宍粟市役所に戻って、みんなで昼ごはんを食べての解散になりました。

リーダー、参加のみなさまお世話になりありがとうございました。



### ◆リーダーよりひと言

藤本

近畿地方は直前に梅雨入りし、天気が危ぶまれたため、中止するつもりでいた。前日になって天気予報が「曇り」に変わったので急きょ予定どおり実施することになった。

普通の山行であれば「晴れ」よりも少し気温が低く絶好のタイミングだった。

ところが、沢歩きするにはちょっと気温が低すぎた。おまけに川の水も普段の水量より昨日までの雨で少し増水していた。川に入ると水圧が強く川のまん中を歩くことができない。水位が10センチくらい増えただけなのに別の川のように。

それでも今回は沢歩き初めての参加者が多く、沢靴を履いて流れる川にじゃぶじゃぶ入って、それなりに楽しんでくれたようなのでよかったと思う。

じっとしていても汗が吹き出して水に飛び込まずにおれないほど暑い日にくればもっと沢歩きの楽しさを体験できたのに・・・・。少し残念だった。このあと8月と9月にもこの川へ来る計画があるので、去年の夏に負けないくらい暑くなってほしいとひたすら願う今日この頃。

## ■初めての山歩き教室(六甲ロックガーデン)・実技5回目

●日 程：6月30日(日)

●参 者 加：サポート La 和田 SLa 藤原(千) 島谷 須増 徳本 野村  
Lb 砂川(延) SLb 尾内 黒本 森本

教室生 14名

●行動記録：阪急芦屋川駅9:15発～高座の滝(9:50着)10:00発～ロックガーデン鉄塔下(10:20着)10:30発～風吹岩(11:05着)11:20発～ゴルフ場トイレ(12:00着)12:15発～雨ヶ峠(12:35着・昼食)13:00発～東お多福山(13:18着)13:25発～土樋割峠(13:40着)13:45発～東お多福山登山口バス停(14:15着)14:40発～阪急芦屋川(15:00着)



### ◆初めての山歩き教室六甲ロックガーデン

徳本

私は、初めての山歩き教室の六甲ロックガーデンには参加したことがなかったので、今回参加しようと思って申し込みました。当日の天気予報は、雨でしたが雨でも決行ということで。阪急芦屋川駅前の公園で集合して準備運動をしました。出発するころから雨が降ってきました。雨の中を高座の滝をめざして坂を歩いて行きました。やっと高座の滝に着きました。雨なので滝の水量は多くザーザーと水が流れていました。ここからロックガーデンです。大きな岩がたくさんあって大きな岩々の間を登って行きました。とても大変でした。もう体力がついていけないと思ったらやっと鉄塔の所に着きました。ここでしばらく休憩しました。

少し休んだら元気になってきました。次は風吹岩をめざして登山道を登って行きました。なだらかな坂の登山道でしたが疲れました。雨はずっと降っていて靴がとても重く感じました。やっと風吹岩に着きました。ここでは雨はやんでいました。しばらく休んで今度は、雨ヶ峠をめざして出発しました。少し急な登山道を登って行きました。雨が激しくなってきました。雨ヶ峠に着いたときは、最高に雨が激しく降っていました。東屋で雨宿りをしながら昼食を食べました。雨の中みんな立って昼食を食べていました。私は、力が尽きて座って昼食を食べました。激しい雨の中ゆっくりと昼食を食べることができませんでした。今日はおにぎりを持ってきてよかったですと思いました。

雨が激しくなってきたので、東お多福登山口バス停をめざして下山することになりました。激しい雨の中、登山道は小川のようになっていました。小川の中を下って行くみたいでした。



靴の中は雨の水が入って濡れていました。雨具はびちゃびちゃでした。防水してきたらよかったと思いました。雨の中をどンドン下って行きました。雨風が強くなってきました。でももう少しだと思えば元気が出てきました。やっとアスファルトの道に出ました。雨がやんで青空が見えてきました。みんなで雨具を脱いでバス停に向かって歩きました。バス停の前で最後の運動をしました。この時にはすっかり雨はやんで晴れてきました。

激しい雨の中の山行でしたが、振り返ってみると上ることや下ることに一生懸命で雨のことは気になりませんでした。雨の中でも楽しい六甲山行でした。リーダーさんはじめサポートの方々、参加の方々お世話になりました。ありがとうございました。

## ◆六甲山を登り終えて(六甲・ロックガーデンから一軒茶屋)

福原

6月30日(日)朝起きると雨は止んでいましたが、前日は一日中雨が降り天気予報では近畿地方は大雨と予報していましたので、早朝より中止の連絡があるのかと思いながらも決行となれば悪天候になるので、怪我防止にストレッチをしながら家を出る時間になるまで待っていましたが連絡は無く、決行するの?と思いながら集合場所の阪急芦屋川駅に向かいました。

駅に着くと山歩き教室のいつもの皆さんと役員の方々が約20名集まっていました。集合時間の9時となり、ストレッチをしていると雨がポツリ、ポツリと降って来たのでカップを取り出し、着ている最中より傘が必要なほどの雨が降って来ましたので、そこでまた中止になるの??とっているとリーダーを先頭に出発となりました。初めてのコースでしたので、雨の中でも景色は新鮮でした。住宅街を歩いて山に入った頃にはより一層の激しい雨になってきました。ここまでの大雨になると炎天下よりマシかな?とか思いながら登っていました。高座の滝からロックガーデン中央稜まで登る途中でもまだ雨は降り注ぎ、降った雨が滝のように足下の斜面に流れ落ち、その中を登って行く状況を目の当たりにし、思わず「わ～すごい」と叫んでいました。途中休憩中にリーダーよりここまでの感想はと聞かれ、「もうここまでで息が上がりキツイです。でも大雨の中、六甲山は地面が硬く、ぬかるみが無く、滑ることも少なく思ったより歩きやすいです」と答えるとリーダーと側におられた方に六甲山は花崗岩で出来ているから硬いのだと教わりました。だからこの雨が地面に染み込まずに斜面を滝のように流れて行くのかと納得しました。その後も雨の中を風吹き岩～雨が峠～東お多福山～土樋割峠まで登って行きましたが、視界は悪く開けた場所に来ると歩道は水路となり沢山水溜まりが出来ていて靴の中にまで水が入り、カップは雨でビショビショ、身体は体温で蒸れ、汗が流れ落ち下着まで濡れてくる気持ちの悪い状態でした。

本来なら一軒茶屋～石の宝殿～蛇谷北山に登り土樋割峠に戻ってくるコースでしたが上記のような荒天候なので土樋割峠で下山することになりました。土樋割峠近くのあずま屋(昼食休憩場所)まで来た時には13時頃でした。昼食を済ませた後、一軒茶屋の登山口までリーダーの案内で行きましたが、登山口手前は川かと思う程の大量の水が白く激しく流れ落ち、そこを通るのは危ない状況でした。

帰路への東お多福登山口バス停に向かう道中ではやっと雨もあがり太陽が射し込んで来る好天候に変わり、ようやくカップを脱ぐと全身汗で濡れていましたが、気持ち良い空気と、無事下山できたことにホッと、清々しい気持ちでバス停まで帰って来ました。衝撃的な半日でしたが、良い経験となりました。リーダー、サブリーダー他役員の方々、また一緒に六甲山を登られた皆さま、有難うございました。